



## 地域看護学実習における学生の学びとその到達点の 検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大川, 聡子, 松尾, 理恵, 和泉, 京子, 都筑, 千景, 佐々木, 八千代, 上野, 昌江 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00005620">https://doi.org/10.24729/00005620</a>

## 研究報告

# 地域看護学実習における学生の学びとその到達点の検討

大川 聡子・松尾 理恵・和泉 京子・都筑 千景

佐々木八千代・上野 昌江

本研究の目的は、地域看護学実習における学生の保健師活動の学びを明らかにし、統合カリキュラムにおける地域看護学実習について検討することである。対象は本学4年次生78名とし、データは学生が14グループに分かれて作成した、地域看護学実習報告会資料から抽出した。

その結果、抽出された項目は全部で376件であった。そのうち各グループに共通する「保健師活動の学び」168件を分析対象とした。内容は【保健師役割の認識】、【保健師活動の評価】、【他機関との連携】に分類された。

実習を通じて、保健師活動についての学びが深まり、また看護を地域の視点から捉えなおすことが可能となっている。金川らの提示した「保健師の必須能力とその内容」との比較では、「地域で生活する人々(個人・家族)の理解と支援能力」について該当する項目が多く、「地域健康開発・変革・改善能力」に該当するものが少なかった。この結果を踏まえて、今後の実習のあり方について検討していきたい。

キーワード：保健師活動，学生，学び，実習，地域看護

## I. はじめに

平成17年4月現在、日本看護系大学協議会に加盟している看護系大学は、国公立・私立あわせて127校であり、平成3年度の11校から15年余りの間に急速に増加した。そして看護系大学の殆どが、4年生課程で保健師免許を取得できる統合カリキュラムを用いている。そのことは、統合カリキュラムを受けて保健師となる新卒者の増加を示している。しかし、大学の統合カリキュラムと短大専攻科、専修学校等1年コースのカリキュラムを比較すると、公衆衛生活動の展開方法や保健師の活動方法の認識の広がり、1年コースの学生に多く見られている<sup>1)</sup>。保健師国家試験合格率に関しても、大学卒業者の合格率は、1年コースの学生に比較して低い<sup>2)</sup>。

一方、地域看護学実習の受け入れ施設である保健所・保健センターにおいては、平成6年の地域保健法制定以降の業務の変化が著しく、保健師業務の煩雑さは年々増してきている。3週間という限られた実習の中で、そうした保健師の実践を学ぶことは困難になっており、そのため実習施設の指導者からは「看護系大学の学生は看護学生が保健師学生かわからない」「実習に対するモチベーションが低い」など厳しい意見が聞かれている。村嶋<sup>3)</sup>も「統合カリキュラムで育つ学生は必ずしも直ぐに保健師になるわけではなく、実習

効率が上がりにくい」と述べている。保健師免許取得に関しては、大学の統合カリキュラムにおける教育時間および教育内容の不足、卒業時の能力の低下などが指摘され、大学院修士課程での保健師の養成についても検討されはじめている<sup>3)4)</sup>。

本学においても開学当初から9年間、学生全員が卒業後保健師国家試験受験資格を得られる統合カリキュラムの中で地域看護学実習を行なっている。その内容として、学生が地域看護に対して意識的、主体的に取り組めるように3年次からの演習と4年次の実習を関連づけ、グループ単位で実習を運営し、実習で取り組む対象領域の限定等の工夫を行っている<sup>5)</sup>。他大学においても効果的な地域看護学実習に向けて、保健師として最も重要な支援技術の一つである家庭訪問に焦点をあてたり<sup>6)7)8)</sup>、実習方法の特徴や今後の課題について述べたり<sup>9)10)11)12)</sup>など、さまざまな角度から実習内容について検討している。しかし、前述のように大学における地域看護学教育のあり方が問われている現状において、実習における学生の学びの到達点を明らかにすることが求められているが、そうした研究は数少ない<sup>13)14)</sup>。

本稿ではこうした状況を踏まえ、本学の地域看護学実習において学生の学びの内容を明らかにし、その内容を通して、統合カリキュラムにおける学生の実習での学びの到達点を検討することを目的とする。

## II. 研究方法

### 1. 地域看護学実習の概要

平成17年度の地域看護学実習施設は11ヶ所であり、そのうち、中核市が4ヶ所、市町村・保健所が7ヶ所である。期間は3週間であり、14ヶ所を4クールに分けて行っている。実習人数は各グループ5～6名である。17年度学生が取り上げた地域の健康課題は母子領域が10件、老人、成人、難病、精神領域がそれぞれ1件ずつであった(表1)。実習は、学生が演習で学んだ実習地域の健康課題に沿って、実習中に取り組む領域(母子、成人・老人、難病、精神)を中心とした保健事業に参加する。同時に対象領域を中心とした家庭訪問(3件以上)、健康教育(1回以上)を行う。これらの実習内容についてグループごとにまとめ、報告会資料を作成し、最終日に同時期に実習した学生と実習指導者、教員で実習報告会を実施している。

### 2. 分析対象

平成17年5月から7月までに地域看護学実習を行った学生78名を対象とし、実習中に14グループに分かれて作成した実習報告会資料よりデータを収集した。

### 3. 分析方法

- 1) 実習報告会資料の中で、“実習での学び”を表していると思われる部分を研究者2名で抽出し、その意味を解釈しながら、内容ごとに分類した。その際、実習クールごとの学びの差異を確認するために、抽出した「実習の学び」に各グループの

実習クールを記載し、分類した。

- 2) 内容別に分類したものを、徐々に抽象度を上げてカテゴリー別に類型化した。
- 3) 類型化したもののうち、小カテゴリーについて、金川ら<sup>4)</sup>が作成した「保健師基礎教育カリキュラム」の「保健師の必須能力とその内容」との関連を研究者6名で検討した。「保健師基礎教育のコアカリキュラム」では、保健師の専門職業人としての必須能力を「基本的能力」「地域で生活する人々(個人・家族)の理解と支援能力」「地域の理解と支援能力」「地域健康開発・変革・改善能力」の4つから構成されると述べている。

### 4. 倫理的配慮

学生に対しては、報告会の資料を研究に用いることや研究の目的について、個人名や施設名が特定されないよう、プライバシーを充分配慮したこと、また研究協力の有無により学生が不利益をこうむることがないことを書面にて説明し、同意を得た。

分析は実習指導に携わった教員で検討を加えながら行なった。分析に際しては学生個人のプライバシーに留意し、学生個人と実習施設が特定されないように行なった。

## III. 結果

### 1. “実習での学び”の全体像

抽出された項目は多岐にわたり、全部で376件であった。そのうち134件が「対象の理解」に関するものであり、168件が「保健師活動の学び」であった。また、健診や家庭訪問など、参加した事業についての学びをあげたものが22件であった。その他、これらの内容に該当しないものが52件であった。

「対象の理解」とは、それぞれのグループがテーマとして選択した対象について、実習を通じて把握した実態について述べているものであり、各グループの実習テーマによって偏りがあり、共通した内容は少なかった。一方「保健師活動の学び」は各グループに共通して見られ、内容は【保健師役割の認識】が106件、【保健師活動の評価】が29件、【他機関との連携】が33件であった(表2)。そのため、今回は「保健師活動の学び」168件を分析対象とした。

### 2. 保健師活動の学び

#### 1) 保健師役割の認識

【保健師役割の認識】は、《個別へのかかわり方》、《集団・地域へのかかわり方》の2つが導きだされた。

表1 平成17年度4年次学生の実習テーマ

クール	テーマ分類	実習テーマ
1	母子	母子全般
	母子	健康課題を持つ小児とその家族
	母子	1歳6ヶ月児の育児不安とそのフォロー
2	母子	母子支援事業とその課題
	母子	1歳未満の乳児を持つ母親の育児不安
	老人	後期高齢者の生きがい
3	母子	低出生体重児とその家族
	母子	母子全般
	母子	4ヶ月児を持つ母親の育児不安
	難病	難病患者・家族のQOLを支える社会資源
4	母子	就労女性が安心して健康な周産期から育児期を過ごすことができる
	母子	4ヶ月～3歳児までの母子
	成人	成人の健康意識について
	精神	こころの健康

表2 保健師活動の学び

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	クール	グループ数	数	
保健師役割の認識 (106)	個別へのかかわり方 (73)	個別ニーズに合わせた支援	1,2,4	6	13	
		信頼関係を構築する	1,2,4	8	8	
		専門的知識が必要	1,4	3	7	
		支援が必要な対象を把握する	2,4	3	6	
		適切な時期に対応する	2,3,4	3	6	
		幅広い視点を持つ	1,2	2	5	
		客観的判断で評価する	2,4	3	4	
		対象者の環境を考慮する	1,2,4	3	4	
		関係づくりを重視する	2,4	3	3	
		対象者の不安を受け止める	2,3,4	3	3	
		社会資源の利用を促す	2,4	3	3	
		柔軟に対応する	2,3,4	3	3	
		住民に身近な存在となる	2,3	2	2	
		対象にあったフォローをする	1,2	2	2	
		継続的にかかわる	1,4	2	2	
	集団・地域へのかかわり方 (33)	地域の特性を踏まえた支援	1,3,4	4	8	
		地域全体を視野に入れる	1,3,4	3	8	
		住民への啓発を行なう	1,4	3	5	
		個を集団へつなげる	3,4	3	4	
		地域の声を反映させる	1,4	2	3	
		住民とともに活動する	1,4	2	3	
		地域での生活を支援する	3,4	2	2	
		地域のリーダーを育成する	2,4	2	2	
	保健師活動の評価 (29)		住民の持つ力を引き出す	1,2,3,4	5	11
			住民の主体性・積極性を生かす	1,2,3,4	6	7
			住民の主体性への働きかけ	2,3,4	3	3
			結果はすぐに出ない	2,4	2	3
			体系的に事業を行なう	1,2	2	3
		地域住民と一体になる	1,4	2	2	
他機関との連携 (33)	他機関との連携 (22)	連携・調整は保健師の役割	1,2,3,4	6	9	
		地域では他機関との連携が必要	1,2,3,4	6	8	
		他機関との連携	2,4	4	5	
	医療機関との連携 (11)	医療機関との連携	2,3,4	9	11	

合計

168

## (1) 個別へのかかわり方

《個別へのかかわり方》は、〈個別ニーズに合わせた支援〉、〈信頼関係を構築する〉、〈専門的知識が必要〉、〈支援が必要な対象を把握する〉、〈適切な時期に対応する〉、〈幅広い視点を持つ〉、〈客観的判断で評価する〉、〈対象者の環境を考慮する〉、〈関係づくりを重視する〉、〈対象者の不安を受け止める〉、〈社会資源の利用を促す〉、〈柔軟に対応する〉、〈住民に身近な存在となる〉、

〈対象にあったフォローをする〉、〈継続的にかかわる〉の15で構成された。

〈個別ニーズに合わせた支援〉は、1, 2, 4クールで実習を行った学生6グループから13件抽出された。内容は「保健師は対象にあわせた関わりが必要」、「集団へのサポートが適さない母親へは個別支援が必要」、「保健師は対象把握後、対象者について個別の対応（家庭訪問・電話相談・面談など）を行なっている」

などであった。

〈信頼関係を構築する〉は、1, 2, 4クールで実習を行った学生8グループから8件抽出された。内容は、「保健師のかかりとして、不安や悩みなど相談しやすいような信頼関係の構築につとめている」、「母子の把握と理解をするためには、信頼関係の構築が不可欠となる」であった。

〈専門的知識が必要〉は、1, 4クールで実習を行なった3グループの学生から7件抽出された。内容は、「保健師は様々な知識が求められる」、「対象者への介入の仕方から保健師の専門性を感じた」などであった。

〈支援が必要な対象を把握する〉は、2, 4クールで実習を行った学生3グループから6件抽出された。内容は、「保健師の役割として対象者の健康状態の把握」、「保健師は、各分野での健康教育や健診などで介入が必要なケースを発見する」であった。

〈適切な時期に対応する〉は、2, 3, 4クールで実習を行った学生3グループから6件抽出された。内容は、「保健師の関わりとして、適切な時期のすばやい対応がされていた」、「保健師の裁量は、適切な時期に適切なサポートを行うこと」であった。

〈幅広い視点を持つ〉は、1, 2クールで実習を行なった2グループの学生から5件抽出された。内容は、「保健師は色々な角度から人を見ることが大切」、「地域での子育て支援をするには、幅広いニーズに対応する必要がある」であった。

〈客観的判断で評価する〉は、2, 4クールで実習を行った3グループから4件抽出された。内容は、「各月齢に応じた観察の視点で評価していくことが児の健康を支えている」、「健診では客観的に観察することが大切」などであった。

〈対象者の環境を考慮する〉は、1, 2, 4クールで実習を行なった学生3グループから4件抽出された。内容は、「保健師の役割として対象者と家族間の調整」、「家族や地域の住民との関係は、地域で生活している人を支援する上でとても大切な情報である」などであった。

〈関係づくりを重視する〉は、2, 4クールで実習を行った学生3グループから3件抽出された。内容は、「保健師は、母子と初めて関わる場では、親身になって話しを受容する」、「保健師は経過観察が必要な事例とより関係が作れるように関わっている」であった。

〈対象者の不安を受けとめる〉は、2, 3, 4クールで実習を行った学生3グループから3件抽出された。内容は、「保健師の役割として傾聴・丁寧な指導を通じた精神的支援がある」、「保健師は難病患者の不安を受け止めることで受容を促す働きがある」であった。

〈社会資源の利用を促す〉は、2, 4クールで実習を行った学生3グループから3件抽出された。内容は、「保健師の役割として社会資源の情報提供」、「社会資

源をうまく利用しながら子育てをするためには、保健師は重要な役割を果たしている」であった。

〈柔軟に対応する〉は、2, 3, 4クールで実習を行なった3グループの学生から3件抽出された。内容は、「保健師の活動は、対象者の生活の場がステージとなるので、個々の生活習慣や地域の文化が色濃く出るところの援助は非常に柔軟性が求められる」、「時代背景や対象者のニーズに応じて新たな事業を創り出すことも保健師の重要な役割」などであった。

〈住民に身近な存在となる〉は、2, 3クールで実習を行なった2グループから2件抽出された。内容は、「保健所・保健センターは住民にとって身近な存在であった」、「保健師は、住民にとって一番近い医療者である」などであった。

〈対象にあったフォローをする〉は、1, 2クールで実習を行なった2グループの学生から2件抽出された。内容は、「保健師が対象にあった事業を紹介することの必要性」、「保健師は、問題に対して適切にフォローする」であった。

〈継続的にかかわる〉は、1, 4クールで実習を行なった2グループの学生から2件抽出された。内容は、「保健師の継続フォローの必要性」、「保健師のかかりとして、継続して事業に参加するようなかかわりがなされている」であった。

## (2) 集団・地域へのかかり方

〈集団・地域へのかかり方〉は、〈地域の特性を踏まえた支援〉、〈地域全体を視野に入れる〉、〈住民への啓発を行なう〉、〈個を集団へつなげる〉、〈地域の声を反映させる〉、〈住民とともに活動する〉、〈地域での生活を支援する〉、〈地域のリーダーを育成する〉の8つで構成された。

〈地域の特性を踏まえた支援〉は、1, 3, 4クールの学生4グループから8件抽出された。内容としては、「保健師は地区の特徴を反映させた関わりを行なっている」、「保健師の地区担当制で、地区ごとの地域性や住民性を把握できる」、「保健師は、地域にあった支援を考え提供している」などであった。

〈地域全体を視野に入れる〉では、1, 3, 4クールで実習を行った学生3グループから8件抽出された。内容は、「保健師は、地域に住む住民の方すべてが対象者である」、「保健師は、地域全体を視野に入れることが大切である」などであった。

〈住民への啓発を行なう〉は、1, 4クールで実習を行なった学生3グループから5件抽出された。内容は「制度周知のために保健センターで啓発の必要性」、「精神疾患の知識を普及する必要がある」などであった。

〈個を集団へつなげる〉は、3, 4クールで実習を行なった3グループの学生から4件抽出された。内容は、

「保健師は個々のニーズを事業に反映させている」, 「保健師は個々のニーズを集団のニーズと捉え母子の交流の場を提供していた」であった。

〈地域の声を反映させる〉は, 1, 4クールで実習を行なった2グループの学生から3件抽出された。内容は「保健師は, 地域に出向くことが大切である」, 「保健師は住民の声を行政へ反映させる役割がある」であった。

〈住民とともに活動する〉は, 1, 4クールで実習を行なった2グループから3件抽出された。内容としては, 「保健師が地域に密着して関係を築き, ネットワークを広げることで住民からの情報提供が得られる」や「保健師が住民と共に頑張っていく姿勢が見えた」などであった。

〈地域での生活を支援する〉は, 3, 4クールで実習を行なった2グループから2件抽出された。内容は, 「地域で暮らしていく母親と子どもを, 地域で支援していくということがよく理解できた」, 「地域で生活するということが具体的にイメージできるようになった」であった。

〈地域のリーダーを育成する〉は, 2, 4クールで実習を行なった学生2グループから2件抽出された。内容は, 「保健センターの事業は, リーダーを育成する」, 「保健師の重要な役割は, 地域住民の中でのサポート力の育成」であった。

## 2) 保健師活動の評価

【保健師活動の評価】は, 〈住民の持つ力を引き出す〉, 〈住民の主体性・積極性を生かす〉, 〈住民の主体性への働きかけ〉, 〈結果はすぐに出ない〉, 〈体系的に事業を行なう〉, 〈地域住民と一体になる〉の6つで構成された。

〈住民の持つ力を引き出す〉は, 1, 2, 3, 4クールで実習を行なった5グループの学生から11件抽出された。内容は「保健師は, 対象者の本来持つ力を引き出すように働きかけている」, 「保健師は, 自身の力を生かせるように, 様々なニーズに合わせてサポートを行っている」などであった。

〈住民の主体性・積極性を生かす〉は, 1, 2, 3, 4クールで実習を行なった6グループの学生から7件抽出された。内容は「地域では住民が主体である」, 「保健師は, 地域住民の力を地域に還元することが必要である」, 「住民の積極性が大切だと感じた」などであった。

〈住民の主体性への働きかけ〉は, 2, 3, 4クールで実習を行なった3グループの学生から3件抽出された。内容は, 「地域では, 対象者が主体的に事業に取り組んでもらえるようなPRが必要であり, 大切だ」, 「(保健師は)住民が主体的に健康増進できる環境づくりを目指す」などであった。

〈結果はすぐに出ない〉は, 2, 4クールで実習を行なった2グループの学生から3件抽出された。内容は「保健師の援助の結果はすぐには表れない」, 「地域づくりは忍耐力と行動力が必要」であった。

〈地域住民と一体になる〉は, 1, 4クールで実習を行なった2グループの学生から2件抽出された。内容は, 「保健センターは地域住民と一体になって地域の母子を支えている」, 「地域が一体となってまちの健康づくりを盛り上げている」であった。

〈体系的に事業を行なう〉は, 1, 2クールで実習を行なった2グループの学生から3件抽出された。内容は, 「保健事業は一つ一つが単独でなく, 体系的に地域を支えている」, 「事業と事業のつながりがわかった」などであった。

保健師活動について学んだ内容の多くが, 学生が実際に体験したことではなくても, 担当保健師から話を聞いたり, 事業に参加している際に, 保健師が対象者と接している様子から学んだものであった。

## 3) 他機関との連携

【他機関との連携】は, 《他機関との連携》, 《医療機関との連携》の2つで構成された。

《他機関との連携》は, 〈連携・調整は保健師の役割〉, 〈地域では他機関との連携が必要〉, 〈他機関との連携〉の3つで構成された。

〈連携・調整は保健師の役割〉は, 1, 2, 3, 4クールで実習を行った学生6グループから9件抽出された。内容は「保健師は連携を行ううえでパイプ役としての機能が大きい」, 「保健師は他機関とも連携をとりながら, 幅広く関わっている」などであった。

〈地域では他機関との連携が必要〉は, 1, 2, 3, 4クールで実習を行った学生6グループから8件抽出された。内容は, 「地域での子育て支援をするには他機関との連携を行う」, 「多問題家庭へは多くの機関の支援が必要」などであった。

〈他機関との連携〉は, 2, 4クールで実習を行った学生4グループから5件抽出された。内容は, 「他職種との連携や, 他の事業とのかかわりを知ることができた」などであった。

《医療機関との連携》については, 2, 3, 4クールで実習を行った学生9グループから11件抽出された。内容は, 「入院から地域で暮らすことを考えた退院指導が必要」, 「地域の視点を持った看護を提供していきたい」, 「病院などに就職して働く中で出会っていく人たちは, 全て地域で暮らしている人であるということを忘れずに接したい」などであった。

これらの学びの内容をクール毎に分類したものを表2に記した。学びの内容について, クール毎の大きな差異は見られなかった。

### 3. 保健師基礎教育のコアカリキュラムとの比較

結果で抽出された“実習での学び”を、金川ら<sup>4)</sup>が作成した「保健師基礎教育のコアカリキュラム」の「保健師の必須能力とその内容」と比較し、検討した。その結果を表3に示した。基本的能力のうち基礎能力としてあげられている「コミュニケーション能力・対人関係能力」には〈関係づくりを重視する〉、〈信頼関係を構築する〉、〈対象者の不安を受け止める〉が該当した。「柔軟性」には〈柔軟に対応する〉が該当した。

地域で生活する人々（個人・家族）の理解と支援能力の「情報収集能力」には〈支援が必要な対象を把握する〉が該当した。「情報分析能力」には〈専門的知識が必要〉、〈客観的判断で評価する〉、〈幅広い視点を持つ〉が該当した。「ケア提供能力」には〈個別のニーズに合わせた支援〉、〈適切な時期に対応する〉、〈社会資源の利用を促す〉、〈住民に身近な存在となる〉、〈対象にあったフォローをする〉、〈継続的にかかわる〉、〈個を集団へつなげる〉、〈地域での生活を支援する〉、〈地域のリーダーを育成する〉、〈住民の主体性・積極性を生かす〉、〈住民の主体性への働きかけ〉が該当した。

地域の理解と支援能力の「地域の情報収集能力」には〈地域全体を視野に入れる〉が該当した。「地域の情報分析・活用能力」には〈体系的に事業を行なう〉が該当した。「地域へのケア提供能力」には、〈地域の特性を踏まえた支援〉、〈地域の声を反映させる〉、〈住民とともに活動する〉、〈住民の持つ力を引き出す〉、〈地域住民と一体になる〉が該当した。

一方、必須能力のうち、地域健康開発・変革・改善能力に該当するものは「調整能力」の〈他機関との連携〉のみであった。

## IV. 考 察

各グループで共通してみられた保健師活動の学びは、【保健師役割の認識】、【保健師活動の評価】、【他機関との連携】の3つに分類された。【保健師役割の認識】は《個別へのかかわり方》、《集団・地域へのかかわり方》の2つで構成されており、《個別へのかかわり方》では、保健師の対象者個人とのかかわり方、《集団・地域へのかかわり方》では集団へのかかわり方について学んでいた。地域における看護活動では、一人ひとりに必要なケアを判断し、適切なサービスを提供する緻密な視点と、地域全体を概観する俯瞰的な視点の両方を備えることが必要である、と齊藤<sup>15)</sup>は述べている。本学における地域看護学実習においても、地域における看護活動の両側面について学ぶことができていると推察された。

【保健師活動の評価】では、住民へのアプローチの

視点を表している項目が多かった。中でも、〈住民の持つ力を引き出す〉、〈住民の主体性・積極性を生かす〉、〈住民の主体性への働きかけ〉といった、内容が類似する3つのカテゴリーから抽出された項目が、あわせて21と多くみられた。このことは、実習を通して学生自身が生活者としての視点を養い、地域での生活を支援する時に、自らが主体となるのではなく、住民の主体性を引き出すエンパワメントの理念について、より具体的に体得できたことが推察された。地域社会の人々は、保健師が活動していく上での対象であると同時にパートナーであるとAnderson<sup>14)</sup>は述べている。学んだ項目から、学生は住民を対象としてとらえるだけではなく、ともに活動するパートナーとしてとらえることが可能になったことがうかがえる。

【他機関との連携】について、工藤ら<sup>12)</sup>は地域看護実習中のレポートの分析から、約8割の学生が多職種、他機関との連携の重要性を実感したと述べている。地域看護においては、様々な職種・機関と協働し事業を進めていくことが多い。病院での実習を経験しつつ、地域看護学実習を行なっていくという状況の中で、医療との連携については考えることが比較的容易だったのではないかと考えられる。実習を通じて学生は、病院も地域の中の一つの機関であるという考え方をもち、病院に求められる役割を客観的に捉えることができた。そのため看護をより広い視点から捉えることが可能となっている。統合カリキュラムにおいて、地域看護学実習を着実にこなしていくことで、学生が看護を医療機関の中だけで捉えるものではなく、人々の生活する場を中心にして捉えていくことが可能であることが示された。

保健師活動について学んだ内容の多くが、学生が実際に体験したことではなく、保健師の活動を見学することで学んだことであった。住民のプライバシー尊重の観点から、地域においても学生がケアに直接参加できる機会は減少しつつあるが、見学や保健師の話の中で、学生は講義の内容を、実際の場面においてリアリティを持って学ぶことができていると考えられる。

また、実習開始時のクールによって、4年次実習で地域看護学実習を最初に行う学生と、同時期に行われている精神、母性、小児、在宅看護学実習を終えて地域看護学実習を行なう学生たちが存在する。実習においては、後者の方がより学びが深まるのではないかと考えたが、今回の分析においては、顕著な差は見られず、1クール目で実習した学生の学びも多岐にわたっていた。むしろ、どのようなテーマで学んだかということが、学生の対象についての理解に大きく影響していると考えられた。これらの結果から、今後学生自身が自ら主体的にテーマを選択できるように支援し、さらに実習においてそれを達成することができるよう、

表3 「保健師の必須能力とその内容」と実習の学びの対応表

能力段階		構成する能力		対応するカテゴリー
基本的能力	基礎能力	コミュニケーション能力・対人関係能力	人と関わる能力	〈関係づくりを重視する〉 〈信頼関係を構築する〉 〈対象者の不安を受け止める〉
		意思決定能力(判断能力)		
		自己管理(教育)能力		
		統合力	問題を総合的に理解する	
		独創性, 発信力	創造する 新しい考えを生み出す 周囲へ発信する	
		倫理性		
	柔軟性		〈柔軟に対応する〉	
	専門基礎能力	保健師としてのアイデンティティ	専門性の自覚	
		洞察力, 予測・推察力, 予防的能力	潜在的問題をとらえる	
		組織的・管理的能力, 行政能力	組織的に解決をはかる	
		研究・分析能力	科学的な思考過程をふむ 情報を整理・分析する	
地域で生活する人々(個人・家族)の理解と支援能力	分析・判断能力	情報収集能力	個人から全体を捉える 個人・集団・地域を関連づけて捉える 生活と関連づけて捉える	〈支援が必要な対象を把握する〉
		情報分析能力	専門的・創造的・独創的な判断	〈専門的知識が必要〉 〈客観的判断で評価する〉 〈幅広い視点を持つ〉
	実践能力	ケア提供能力	基本的看護技術の提供 セルフケアを支援する 個人・集団の力量形成	〈個別のニーズに合わせた支援〉 〈適切な時期に対応する〉 〈社会資源の利用を促す〉 〈住民に身近な存在となる〉 〈対象にあったフォローをする〉 〈継続的にかかわる〉 〈個を集団へつなげる〉 〈地域での生活を支援する〉 〈地域のリーダーを育成する〉 〈住民の主体性・積極性を生かす〉 〈住民の主体性への働きかけ〉
地域の理解と支援能力	分析・判断能力	地域の情報収集能力	保健指標 生活者の声を引き出す 実態調査	〈地域全体を視野に入れる〉
		地域の情報分析・活用能力	根拠に基づいて地域の健康課題を把握する 保健計画・事業の企画立案・評価	〈体系的に事業を行なう〉
	実践能力	地域へのケア提供能力	生活者と協力・協働する(パートナーシップ) 社会資源の開発 社会資源の質・量の管理 住民の力量形成(まちづくり) 住民の権利擁護	〈地域の特性を踏まえた支援〉 〈地域の声を反映させる〉 〈住民とともに活動する〉 〈住民の持つ力を引き出す〉 〈地域住民と一体になる〉
地域健康開発・変革・改善能力	実践能力	調整能力	関係機関との交渉・調整能力 ケアマネジメント能力	〈他機関との連携〉
		組織化能力	ネットワーク化 公共性の高い問題を判断する	
		政策施策化能力	地域の問題を施策化に結びつける 行政施策を企画する 根拠を示して説明できる 予算を確保する	
		健康危機管理能力	健康危機への対処(災害・感染症等) 危機の予防	



調整を図っていくことが必要である。

次に、金川ら<sup>4)</sup>の「保健師の必須能力とその内容」と「保健師活動の学び」を比較すると、「基本的能力」に該当するものは少なかった。その理由として、基本的能力は他の領域の実習とあわせて形成されるものであり、今回の分析は保健師の活動に焦点を当てていたためであると考えられる。一方「地域で生活する人々(個人・家族)の理解と支援能力」「地域の理解と支援能力」について学んだ項目は多く、内容も多岐にわたった。中でも特に、「ケア提供能力」に該当する項目が多かった。しかし、〈個別のニーズに合わせた支援〉や〈対象にあったフォローをする〉などのカテゴリーの内容から、「情報収集能力」に該当する、対象のニーズや対象自身を把握することについても、学生の視野は広がっていると考えられる。必須能力のうち、「地域健康開発・変革・改善能力」に該当するものは「調整能力」の〈他機関との連携〉のみであった。このことから、統合カリキュラムにおいて、これらを実践の中で考えることは困難であったと思われる。学生の学びが「地域の理解と支援能力」から、「地域健康開発・変革・改善能力」へと発展するよう実習のあり方を検討していくことが必要である。

## V. 研究の限界

これらのデータは学生の学びとしてレポートに記載されたものを抽出しており、学生が直接獲得できたかどうかについては不明である。しかし、これらの能力が保健師として活動していくために必要であると学生は理解できたことが推察された。今後、報告会資料を経年的に分析し、また学生に対しインタビュー等を行なうことで、実習内容をより詳細に評価していく必要があると考える。

## VI. 結論

本研究では、本学の地域看護学実習における学生の学びの内容を明らかにし、統合カリキュラムにおける到達点を検討した。今後、これらの結果を生かし、より学生の学びが深まる実習のあり方について検討していきたい。

## 文献

- 1) 平野かよ子他：看護系大学、短大専攻科、専修学校別の保健師養成について—教員と学生の保健師活動の認識等の実態調査。日本公衆衛生雑誌, 52 (8), 746-755, 2005
- 2) 週刊保健衛生ニュース, 平成17年4月18日付
- 3) 村嶋幸代：保健師に求められる修士レベルの教育, 保健の科学, 47 (7), p512-518, 2005
- 4) 金川克子他：公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会活動報告「保健師のコアカリキュラムについて」中間報告。日本公衆衛生雑誌, 52 (8), 756-764, 2005
- 5) 上野昌江, 津村智恵子：大学での地域看護学実習の現状と課題。保健婦雑誌, 59 (12), 2003
- 6) 俵麻紀他：家庭訪問実習の教育効果。長野県看護大学紀要, 2, 17-27, 2000
- 7) 武藤紀子他：家庭訪問実習における地域看護教育方法の検討。千葉大学看護学部紀要, 24, 63-71, 2002
- 8) 大西洋子他：地域看護学教育における家庭訪問実習の学びの分析による学習方法の検討。群馬県立医療短期大学紀要, 10, 117-125, 2003
- 9) 関美雪他：保健所・保健センター実習における学生の学び。埼玉県立大学紀要, 14, 151-154, 2002
- 10) 石田千絵他：統合カリキュラムにおける地域看護学実習のあり方—保健所・保健センターにおける4年間の実習の経過報告。日本保健科学学会誌, 7 (3), 139-147, 2004
- 11) 尾崎伊都子他：保健所における本学部地域看護学実習の方法の検討—第2報。名古屋市立大学看護学部紀要, 4, 15-24, 2004
- 12) 工藤節美他：看護の視点の広がり育成するための地域看護学実習, 大分 看護科学研究, 5 (2), p21-26, 2004
- 13) 須永恭子他：内容分析を用いた臨地実習における学生達成の自己評価と指導者評価の分析。Quality Nursing, 10 (3), 57-65, 2004
- 14) 古澤洋子他：地域看護学教育のコアカリキュラムに関する研究—地域看護学実習記録記述の分析による到達度と現場における保健師能力の検討。岐阜医療技術短期大学紀要, 19, 5-15, 2003
- 15) 齊藤恵美子：地域看護学総論① 地域の健康課題と地域看護学, 金川克子編, 第2章 地域看護学の構成, メジカルフレンド社, p61, 2003
- 16) Elizabeth T. Anderson他編集, コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際, 医学書院, 2002

## Awareness of Public Health Nurse Activity of Students in Community Health Nursing Clinical Practice

Satoko OKAWA, Rie MATSUO, Kyoko IZUMI  
Chikage TSUZUKI, Yachiyo SASAKI, Masae UENO

This study was performed to clarify awareness of the activities of public health nurses and to discuss the role of community health nursing clinical practice in our teaching curriculum. A total of 376 items were extracted from a report about community health nursing clinical practice written by 14 groups consisting of 78 final-year students from our university. We then examined 168 items related to awareness of the activities of public health nurses that were common to each group. Awareness of the activities of public health nurses consisted of the following three categories: Recognition of the role of public health nurses, Evaluation of the activities of public health nurses, and Cooperation with other organizations.

Students' awareness of the activities of public health nurses increased through practice, and they came to understand nursing as related to the community. In comparison with "public health nurse's essential ability and contents" reported by Kanagawa et al., there were many items related to "Understanding and ability to support people (individuals and families) living in the community," but very few items related to "Community health development, revolution, and improvement ability." The results of this study should be taken into account in revising our teaching curriculum.

Key words: public health nurse activity, students, awareness, practice, community health